

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

## 平成 25 年度 第 1 回小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会 会議概要

日時：平成 25 年 6 月 28 日（金）13:30～15:00

会場：小田原市民会館 6 階 第 6 会議室

出席者（五十音順 敬称略）

・小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会委員

【会長】鈴木博晶

【コーディネーター】志澤昌彦

【委員及び関係者】飯田智夏、鈴木悌介、鈴木伸幸、中矢慎一、西山敏樹、原正樹、古川晴基、蓑宮武夫、山田健司、和田伸二

・小田原市事務局

環境部副部長、エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、  
エネルギー政策推進係員 3 名、環境政策課環境政策係長

結果概要

<1 開会>

<2 会長あいさつ>

<3 議題>

(1) 太陽光発電事業の進捗状況の報告

(① 大規模太陽光発電事業)

- 志澤委員から、資料 1-1 に基づき「ほうとくエネルギー株式会社」が行っている大規模太陽光発電事業及び小田原市太陽光発電屋根貸し事業の進捗状況について報告があった。
- 大規模太陽光発電事業については、現在、残土の搬入が終了し、完了のための測量中である。完了届出及び完了検査後、事業者である「ほうとくエネルギー株式会社」が県から土地利用調整条例、林地開発許可を受け、平成 26 年 1 月から工事を開始し、5 月の完成を予定している。
- 市民ファンドについては、大規模太陽光発電事業と屋根貸し事業を併せて募集を行う。現在、募集を行う事業者と調整を行っているところである。

主な意見

鈴木（悌）委員 ほうとくエネルギー株式会社の資本金の 2 次募集や市民ファンドの詳細について教えてほしい。

**志澤委員** 7月から8月に資本金の増資を予定している。現在、資本金は3,400万円であるが、授権資本金は1億円なので、その範囲で増資を行う。増資は、小田原市内だけではなく、2市8町から募集を行う予定である。市民ファンドについては、大規模太陽光発電及び屋根貸し事業の合計工事費4億円のうち1億円を市民ファンドとして募集を行う。

**和田委員** 市民ファンドの募集は、全国を対象に行うのか。

**志澤委員** 募集は全国を対象に行うが、小田原市民のファンド参加がなるべく多くなるように、工夫して行う。一方で、全国の人にも小田原市で再生可能エネルギー事業を行っているということを知ってもらいたい機会である。

**養宮委員** 鹿児島県で、「さつま自然エネルギー」が募集している市民ファンドがあり、こういう全国の事例を参考にしたい。

## (2)屋根貸し事業)

- 事務局から、資料1-2に基づき太陽光発電屋根貸し事業者の募集結果について報告があった。
- 平成25年3月13日から4月19日に事業者の募集を行い、審査をした結果、富水小学校、下曾我小学校及び曾我みのり館の3施設について「ほうとくエネルギー株式会社」を交渉権者と決定した。
- 小田原市太陽光発電屋根貸し事業については、現在、事業者が許認可関係の手続きを行っている。小学校の夏休みに基礎工事、冬休みにパネルの設置工事を行い、平成26年2月の完成を予定している。

## 主な意見

**養宮委員** 買取価格が来年度になると下がると思われるので、今年度中に更なる屋根貸し事業者の募集を行うほうがよいと考えるが、状況はどうか。

**和田委員** 市としては、津波避難施設や屋根の防水状況等を考慮すると、対象となる公共施設があまりないのが現状である。ただし、公共施設の新築や改修に合わせて屋根貸し事業者の募集を考えたい。

**養宮委員** 公共施設だけではなく、私立学校など民間施設にも屋根貸し事業の打診を試みてはどうか。

**鈴木(悌)委員** 市や県の公共施設だけではなく、民間の倉庫等も検討してはどうか。防災面も考慮した公共施設や民間施設への太陽光発電設置の施策を考えるべきではないか。

**山田委員** 県では、民間事業者同士の「屋根貸しマッチング事業」を行っているが、なかなか実績があがらないのが現状である。賃料が安いことや、屋根の賃借権は登記ができないため、屋根貸し事業として20年間借りることができるか不安が残り、民間事業者同士の屋根貸し事業が進まない。県では、民間事業者同士のより効果的なマッチ

ング方法を検討している。

## (2) 小水力発電事業化の検討について

- 事務局から、資料2に基づき平成25年度小水力発電事業化の検討について報告があった。
- 本年度は水利権者等の関係者を交えた検討体制を確立のため、水利権者等の関係者に小水力発電事業化検討チームへ参加いただけないか現在調整を行っている。
- また、候補地として選定した2か所について、流量調査等の詳細な調査を行う。その結果を踏まえて、発電施設の建設費を積算し、事業採算性の分析を行い、小水力発電事業化計画の策定を行うことが目標となる。
- 坊所川の流量調査については、平成25年7月から平成26年2月にかけて実施をする予定である

### 主な意見

**志澤委員** 小水力発電の事業化を行う上で発電設備等の実施設計は、約1,000万円かかる。長野県飯田市では、条例を整備し、このような初期費用に対し、無利子貸付を行っているようである。小田原市でもこのような制度の検討を行う必要がある。飯田市の条例は、その他にも先進的な内容が含まれているので、この条例について勉強を行うとよい。

**事務局** 市としては、地域発電事業者へのバックアップとして、何ができるかについての検討が必要だと認識している。

**鈴木(悌)委員** 本年度は小水力発電事業化計画の策定を行うとあるが、具体的にどのような事業化計画を策定する予定か。

**事務局** 本年度実施する流量調査のデータは、観測期間が短いため必ずしも十分なデータではなく、また工事費も概算でしか算出できないため、仮定に基づいた事業化計画になると思われる。

**西山委員** 流量調査の実施期間は平成25年7月から平成26年2月とあるが、3月から6月の観測データはどうするのか。

**事務局** 1年間を通した流量観測は、予算執行の原則や環境省との委託契約の時期により実施できない。観測ができない期間については、降水量等から推測できないか専門家に相談をしていきたい。

**養宮委員** 荻窪駒形水車への発電機の設置は、どのような位置づけか。

**事務局** 荻窪駒形水車への発電機の設置は、市民への普及啓発という位置づけである。発電機の検討や設置工事に高校生などの市民が参加できる事業として考えている。

## (3) 協議会活動の周知の充実について

- 西山委員から、資料3に基づき協議会活動の周知の充実について説明があった。

- 協議会活動の周知の充実についての検討は、志澤委員、鈴木（大）委員、鈴木（伸）委員、西山委員を中心に行うが、協議会委員だけではなく関東学院大学の学生にも参加してもらい、若い視点からの意見を取り入れていく。
- 活動内容としては、FMおだわらの広報誌「お隣さん」へ協議会委員の紹介や思いをリレーコラムとして掲載、絵画コンクールへの共催、商工会議所の産業まつりの「なりわい体験ツアー」に市民意見交換会として参画、セミナーの開催を行う予定である。
- 「なりわい体験ツアー」として行う市民意見交換会は、9月1日(日)に実施予定。大規模太陽光発電所建設予定地や小水力発電所遺構等の再生可能エネルギー関連施設の見学や、太陽光発電システムの組み立て体験及び設置を行う予定である。

#### 主な意見

**鈴木（悌）委員** 産業まつりの「なりわい体験ツアー」は、8月24日から9月22日の期間で、全60コース、1,000人規模の参加が見込まれている。この中の一つとして、市民意見交換会を行う。

**鈴木（伸）委員** 協議会の活動ではないが、産業まつりのステージ音響に必要な電力を太陽光発電システムにより賄うことを考えている。実績のある業者と話を進めているが、約80帖のパネルを平置きする予定。曇天の場合でも、バイオ燃料等の発電機で対応する。

#### (4) 年間スケジュールについて

- 事務局から、資料4に基づき年間スケジュールについて報告があった。各会議の開催時期や開催回数は、検討の進捗状況により変更される。
- 環境省の委託事業としての協議会活動は本年度で終了となるので、来年度以降の協議会の体制について本年度に検討する必要がある。次回以降の協議会において、検討を行いたい。

#### 主な意見

**養宮委員** バイオマス発電についての検討を行ってはどうか。事業化の検討というよりも、その前段階の勉強会として行ってはどうか。

**鈴木（悌）委員** 太陽熱や地熱の検討を行ってはどうか。

**事務局** この協議会は、事業化の検討を行うということが目的となっている。太陽光発電及び小水力発電以外の再生可能エネルギーについては、来年度以降の協議会の体制を検討する中で、他の再生可能エネルギーをどのように扱うかについても検討していきたい。

**鈴木（悌）委員** 国の様々な支援制度があるので、活用してはどうか。

**志澤委員** 小田原市だけでは再生可能エネルギーのポテンシャルがあまり高くないので、

県西地域の他の市町村にも、今まで検討してきた市民参加型再生可能エネルギー事業化のノウハウを広げていきたい。県にも協力をお願いしたい。

(5) その他

- 次回、平成 25 年度第 2 回協議会は、秋頃を予定している。

<4 閉会>